記者発表資料

平成２７年６月２２日
国土交通省東北地方整備局
磐城国道事務所

地元の皆さんが国道６号久之浜バイパスの工事を見学します。
～高さ７５ｍの切り土工事などを見学～

国道6号久之浜バイパスは、平成27年度全線2車線供用を目標に整備をすすめています。
平成２７年６月２８日（日）に、久之浜町田之網地区の皆さんが、現在工事を行っている現場を見学します。
地元の皆さんに、工事現場を実際に見てもらい、これを機会に改めて事業への理解を深めていただき、供用への気運も高まればと考えております。
当日は、完成時には高さが約７５ｍとなる切り土工事の状況などを見ることができます。

※報道機関の皆様へ
現地取材をされる場合は、10:00までに、別紙の集合場所にお越しください。

１．日　時：　平成２７年６月２８日（日）　１０：００～１１：４５
※荒天の場合は中止することもあります。

２．場　所：　一般国道６号久之浜バイパス　久之浜町田之網地区
※別紙の位置図と写真を参考に願います。

３．主　催：　株式会社　安藤・間　東北支店

４．参加予定者：　事前に案内している久之浜町田之網地区の皆さん 約２０名

発表記者会等:いわき記者会、いわき記者クラブ、いわき市ふるさと発信課

問い合わせ先	
【見学会に関すること】 四倉久之浜地区改良工事 株式会社安藤・間 東北支店　四倉作業所　0246-79-0022 現場代理人　井上（いのうえ）　賢一（けんいち）	【事業に関すること】 国土交通省　東北地方整備局 磐城国道事務所　0246-23-2211(代表) 副所長　千葉（ちば）　富彦（とみひこ）（内線204） 工務課長　岩渕（いわぶち）　誠（まこと）（内線411） 【工事に関すること】 磐城国道事務所　平出張所　0246-34-8433 建設監督官　芳賀（はが）　重敏（しげとし）

久之浜バイパス　田之網地区　現場見学会　案内図

別　紙





©2015 Google, ZENRIN





久之浜バイパスの事業概要

一般国道6号は、東京都中央区から宮城県仙台市を結び、浜通り地方の産業・経済・文化の交流を支える延長約431kmの主要幹線道路です。

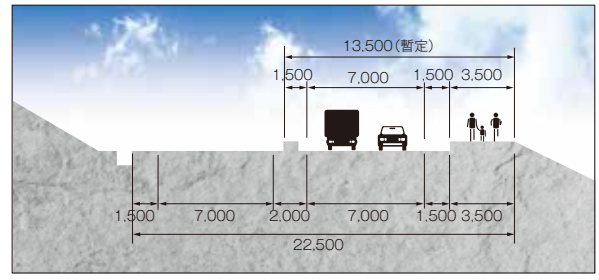
久之浜バイパスは、いわき市久之浜町における国道6号の平面線形不良区間や幅員が狭いトンネル、越波による交通障害など、道路構造上のボトルネックを解消し、主要幹線道路としての防災機能強化を目的に、福島県いわき市四倉町～久之浜町までのバイパスとして平成元年度に事業着手しました。

平成11年3月には、終点側の2工区（L=2.3km）を常磐自動車道いわき四倉ICと国道6号を結ぶアクセス道路として暫定的に2車線で供用しています。

●道路構造諸元

延　　長	6.0km
構 造 規 格	3種1級（4車線）
設 計 速 度	80km/h
曲線半径（最小）	300m
縦断勾配（最大）	4.0%

●標準横断図




▲セミトレーラの横転事故による通行止めの状況


▲大型車のすれ違いが困難な波立トンネル


▲越波による通行止めの状況


▲国道6号（久之浜町）の津波被害状況（H23.3）

●事業経緯

平成元年度	事業着手
平成７年度	用地・工事着手（2工区）
平成10年度	2車線暫定供用（2工区）
平成17年度	用地着手（1工区）
平成19年度	工事着手（1工区）
平成27年度※1	全線2車線暫定供用予定

※1：供用予定年度については、事業進捗等により、変更になる場合があります。

久之浜町は、初日の出・初詣の人気スポットである波立海岸・波立寺（波立薬師）など、いわき市でも有数の観光地でしたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では甚大な津波被害を受けました。

今般の未曾有の津波災害の教訓から、ハード・ソフト対策を組み合わせた『多重防御』の発想により、いわき市では「避難誘導サイン」や「津波避難ビル」などを、福島県では「海岸堤防の嵩上げ」や「津波防災緑地」などを、そして国土交通省では海岸沿いの「波返し擁壁」や「久之浜バイパス」などを整備することによって、総合的な防災力が向上したまちづくりを推進しています。

久之浜バイパスが全線暫定2車線で供用予定の平成27年度が久之浜町の“復興元年”として、従前のような観光客で賑わうまちとなるよう、未供用区間（L=3.7km）の整備に総力を挙げて取り組んでいます。

久之浜バイパスの整備効果

久之浜バイパスを利用することによる効果

◎平面線形不良区間の解消

2箇所の平面線形不良区間（R=90m）が解消され、交通事故が減少するとともに、物流交通の円滑化や安全性が向上します。

◎すれ違い困難箇所の解消

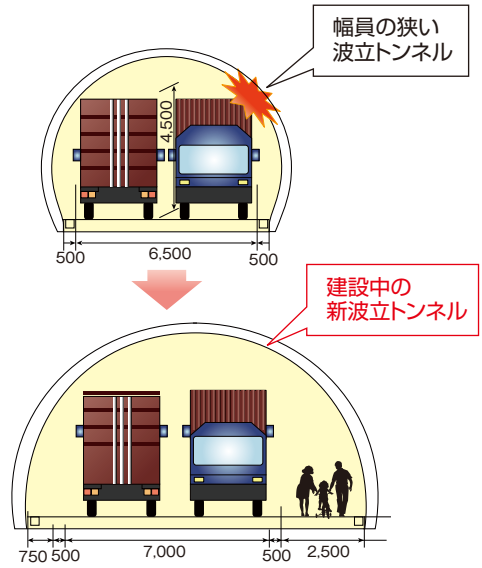
大型車のすれ違いが困難な幅員の狭いトンネル箇所（江之網トンネル・波立トンネル）が解消され、安全性が向上します。

◎越波による交通障害の解消

気象条件に左右されることなく、安心して走行できるようになります。

◎久之浜市街地の沿道環境の改善

久之浜町を通過する交通が久之浜バイパスを利用することにより、久之浜市街地の道路交通騒音が低減するなど、沿道環境が改善されます。



東日本大震災の教訓をふまえた新たな効果

◎緊急輸送道路としての安全性・信頼性の向上

久之浜町は、東日本大震災時の津波では7mを超える津波高さを記録しましたが、完成していた江之網橋には被害はありませんでした。

久之浜バイパスが全線供用されることにより、安全で信頼性の高い道路ネットワークが確保されます。

◎より迅速な道路情報の収集

津波警報発令時においても道路パトロールが可能になることから、いわき市北部の道路情報収集体制が充実・強化されます。

◎新たに発生した交通渋滞の解消

福島第一原子力発電所事故対応に伴う車両により、朝夕の交通量が増加したため、各所で新たな交通渋滞が発生しています。

久之浜バイパスが代替ルートとなることにより、これらの交通渋滞が解消し、移動時間が短縮されます。

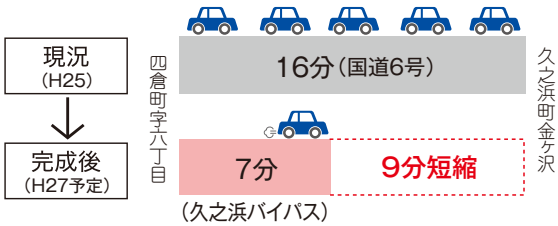


▲江之網地区の津波被害状況（H23.3）


▲久之浜町の交通渋滞状況（H25.9）

事業効果（予測※2）

久之浜バイパスを利用することにより、久之浜町を通過する時間が16分（朝夕のピーク時）→約7分に短縮し、交通渋滞が解消されます。



※2:平成25年度当初を現況とし、平成27年度全線2車線供用後の効果を予測したものです。

東日本大震災の記憶を風化させない取組

◎津波標識・津波デリニェーター・海抜表示シート

国道6号には、東日本大震災の津波で浸水した区間の前後に大型標識で、区間内には小型標識や津波デリニェーターなどで浸水した区間であることを明示しています。

これらは、道路利用者の皆さまが常日頃から浸水範囲を認識していただくことで、有事の際の避難行動の一助となることを目的としています。